

榊原病院

Monthly

Vol.58
2022.October

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。

日本司法精神医学会理事。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 175床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

当院のDPAT先遣隊が令和4年度大規模地震時医療活動訓練に参加しました

薬剤科 稲垣 雄一

10月1日に開催された内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練に、当院の「DPAT先遣隊」が参加しました。この訓練は、南海トラフ地震を想定し、全国から参集した災害派遣医療チーム等が関係機関や災害拠点病院等と連携して、病院支援や患者搬送等の医療活動をシミュレーションするものです。今回、三重県は被災地のひとつとして想定され、全国から様々な医療チームが集まって訓練を行いました。



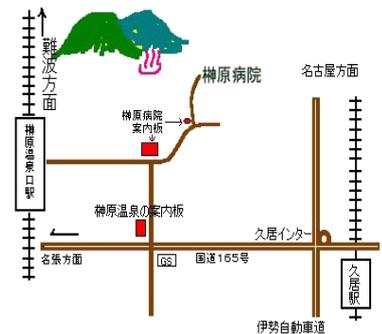
DPATとは、災害派遣精神医療チーム：Disaster Psychiatric Assistance Teamの略称で、『自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的なチーム』を指します。災害時には、ストレスを抱え、不安や不眠に悩まされる方も多くなりますが、DPATは、そうしたこころのケアが必要な人たちのサポートを行います。ただ、他方では、被災した精神科病院からの患者搬送を支援するなど、活動はさまざまです。中でも、「DPAT先遣隊」は、発災から概ね48時間以内に被災地域において活動することが求められており、管内のDPAT活動を指揮する本部の立ち上げや、ニーズアセスメント、急性期の精神科医療ニーズ対応等の役割を担います。当院は、県内でも数少ないDPAT先遣隊登録医療機関です。

DPATは、精神科医師・看護師・業務調整員の3職種を含めた多職種から成る数名で構成されますが、今回の訓練には、「医師1名、看護師2名、業務調整員1名」というチームで参加しました。私は薬剤師ですが、チームの中では「業務調整員」を担当しています。「業務調整員」はロジスティクスとも呼ばれ、活動に必要な情報の収集・記録や、物資や通信手段、移動手段の確保など、チームが能力を発揮するための基盤となる役割を担います。

DPATは、精神科医師・看護師・業務調整員の3職種を含めた多職種から成る数名で構成されますが、今回の訓練には、「医師1名、看護師2名、業務調整員1名」というチームで参加しました。私は薬剤師ですが、チームの中では「業務調整員」を担当しています。「業務調整員」はロジスティクスとも呼ばれ、活動に必要な情報の収集・記録や、物資や通信手段、移動手段の確保など、チームが能力を発揮するための基盤となる役割を担います。

今回、我々は、県の職員と協働して、DPAT調整本部立ち上げと運営の訓練を行いました。DPAT調整本部は、県内で活動する全てのDPATの指揮や、県の災害対策本部等との連絡・調整、精神科病院の被災状況の情報収集等の統括業務を行います。訓練では、各方面から情報が錯綜し、被災し支援が必要な医療機関が多く存在するという設定の中で、DPAT隊の数も限られており、対応の難しさを実感しました。

当院ではDPAT部会を設置し、院内で職員対象の研修を開催するなど、災害対策への意識を高めています。今後とも、DPATへのご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス
(車庫前行き) 約30分

自動車/ 久居インターより約20分
マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和4年9月までに全症例は134例となりました。新規導入は8月2例、9月0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。



〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。

デイ・ケア案内

デイケア室は10月11日より、デイケア昼食ありで実施しています。皆さまに安心して過ごしていただけるように、デイケア室は常時換気をしています。それに加え、昼食時間は、座席の間隔を広くとり、黙食にご協力をいただいています。デイケアの時間は9:30～15:30です。これまでより、少しゆったりと過ごしていただけたと思います。

プログラムは、体育館でのスポーツやコグニサイズ、一人でのカラオケ、アート、手芸、園芸、音楽鑑賞、クイズ、脳トレ、こころの勉強等のプログラムを用意しています。プログラム表は外来や、病院のホームページにあります。

デイケアでは、ご利用の皆さまに面談も行っています。皆さまが、ご自分の望む方向に向かうことを、デイケアは応援します。また、皆さまからのご要望も教えていただければと思います。どうぞこれからもよろしく願います。



デイケア作品掲載コーナー



花壇の様子です

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



栄養コラム



高血圧の定義とは？

血圧が高く血圧を下げる薬を飲んでいる方がいらっしゃると思います。また、病院にくると血圧が上がる方も少なくありません。いわゆる白衣高血圧というものです。これは家庭で135/84mmHg、診察室で140/90mmHgと定義されています。意外と日常で血圧が上がる場面が多々あります。

例えば車の運転や排便時です。車の運転では安全運転でも25mmHgぐらい上昇するそうです。知らず知らずのうちに緊張しているからでしょうか。もう一つの排便ですが、力むと上がります。そうならないように小まめに水分補給をして、決まった時間に排便することや食物繊維(豆類・キノコ類・海藻・大麦)を摂ると言われていますが、良いからと言って過剰にならないよう気を付けてください。